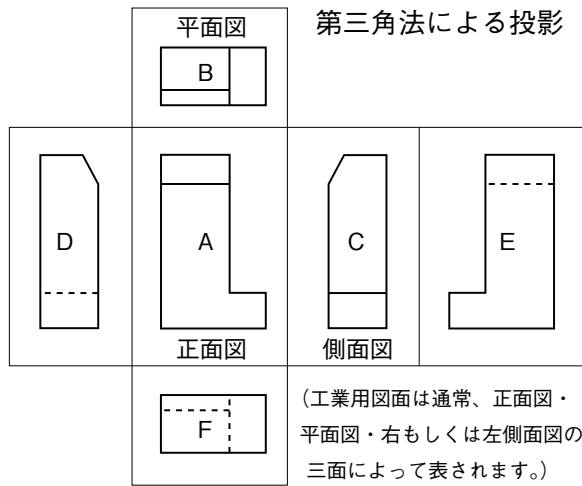


第三角法

だいさんかくほう

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字



概要

第三角法は、製図で用いられる正投影図法の一つで、通常は、正面・平面・側面の三面図で構成されます。正投影図法とは、立体を平面上に表す方法の一つで、物の形状を正確に表すことができる長所があります。この三面図の配置の仕方によって第三角法は、第一角法と区別されます。

第三角法を用いて三面図を作成する際は、まず物体の最も代表的な面を、正面図として描きこみます。平面図は正面図の真上に配置し、側面図は、基本的には右側面図を正面図の右側に配置します。(左側面図であれば左側に配置します。) 図の配置場所は決まっており、特に、平面図が正面図の上に配置される点は注意が必要です。配置場所を誤ると、第一角法との取り違いや、正しく情報を伝えられない場合があります。(第一角法では、平面図は正面図の下に置かれ、「右」側面図が「左」側に置かれます。) 第一角法は主にヨーロッパで用いられ、第三角法は主にアメリカで用いられます。日本では、JIS (日本工業規格) の規定により、プロダクト制作のための図面は、一般的に第三角法で表すことになっています。

第三角法の考え方

